

統合小学校について

板柳町教育委員会は、令和5年11月20日開催の会議において、統合小学校の選定案を取りまとめるとともに、校舎改修工事の規模等から、工事期間中も児童が安心・安全に充実した学校生活を送るための対応について協議いたしました。

そして町民の『小学校の統合について早期に進めて欲しい』という意見に応えるよう、令和9年4月の開校を目指してスピード感をもって計画を進めて参ります。

1 統合小学校として板柳南小学校を選定する

まず、校舎の様子からは、板柳北小学校（以下、北小）、板柳南小学校（以下、南小）、双方優劣つけがたい状況であるが、児童等の出入りの確認、不審者等防犯対策も踏まえた場合、1階に職員室がある南小が優位と考える。2階のプレールームは、図書室と一体化した広いオープンスペースとして整備することで、学校の魅力的なスペースとなりうる。また、下水道が整備済みで近くに中継ポンプがあることから停電時でも下水道が利用可能となっており、避難所になった場合でも適応性が高い。

スクールバスの運行については、校舎前でUターンに切り返しが必要な北小とは違い、広々とした空間でUターンが可能となるため、数台のバスの児童の乗降もスムーズに行われるものと予想する。

徒歩通学においても、学校周囲が田園で人目の少ない北小より、住宅地や高齢者施設等が周囲にある南小の方が、住民からの見守りが得やすく、安全面では優位と考える。また近くに新しい交番が設置されることから、地域の安全意識が高まり、安全面に関する協力が得やすいと思われる。

南小近くの旧板柳高等学校は、スポーツ施設を含む複合施設として利活用される予定であることから、児童地域クラブにおけるスポーツ・文化活動の場として利用しやすく、町の社会体育や文化芸術活動との連携が図られることに期待が高まり、児童の校外での活動の活性化に繋がるものとする。

そして既存の小学校に統合するという点で最も重要と考えるのは、南小が、板柳町の4つの小学校の中で、学校に近い距離に住んでいる児童が最も多いことである。児童が多いということは、同様に南小の近くには多くの町民が住んでいるということであり、今後も継続して、域内に住む児童が多いことが期待される。以上のことから、これからの板柳町の将来を担う、統合小学校に通う児童が、多くの町民に温かく見守られ学び育んでいける教育環境として南小が最も適切と考える。

2 工事期間中の児童の良好な学習環境の保持及び安全確保

統合小学校に通う小学生たちが快適に学べる教育環境になるよう、建築後40年経過する校舎を今後30年間使用することを目指し、長寿命化改良事業を進め、校舎の全面的な改修工事を実施する。そのため、工事の規模等を考慮すると、工事中の校舎では、十分な学習環境が保持できないことや、児童の健康面の不安や事故発生等が非常に懸念される。

工事中も児童が安心・安全に充実した学校生活を送ることを最重要と考えた場合、工事期間は南小の児童と北小の児童が、北小校舎で一緒に学ぶことが最も適切である。児童の安全と安心して学べることを第一に考え、児童の環境の変化について十分な対策等に努め、保護者の負担軽減にも配慮しながら、児童の学習活動に支障がないよう対応していく。

3 その他必要な事項

統合小学校の改修基本構想・基本計画を策定し、改修工事を進めていく。

統合小学校の概要や開校に向けての計画等について住民説明会や保護者説明会を実施する。

小学校の統合を円滑に行うために必要な事項について、協議・調整するための小学校統合準備委員会を設置する。